

## 11 総合的な探究の時間

### ☆なぜ「探究」なのか

社会が急速に変化する中で、自ら課題を発見し解決する力、多様な他者と協働して解決する力などの資質・能力が求められるようになり、問題解決的な学習が発展的に繰り返される探究的な活動が重要視されるようになりました。現行の学習指導要領からは、「総合的な学習の時間」の取組の成果を活かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、「総合的な探究の時間」に名称が変更されました。教育課程の中核に位置付け、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行うことが期待されています。

### ☆目標設定・評価のポイント

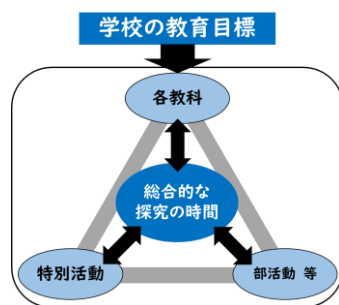
学校教育目標を踏まえた「各学校において定める目標」に基づき、育成を目指す資質・能力を三つの柱に即して具体的に示します。この目標に到達した姿を事前に評価規準として設定したうえで学習活動を評価します。

提出物の数や出席回数で評価するものではないという点においても、各教科・科目等と考え方は同じです。

### 総合的な探究の時間とは

総合的な探究の時間は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目標にしています。

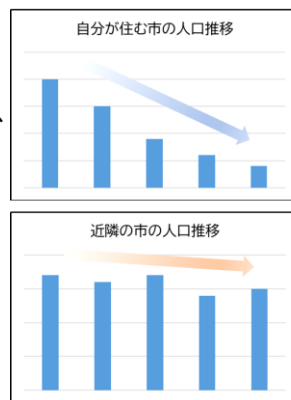
指導の計画にあたっては、上図のように、カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、学習の効果の最大化を図りましょう。



### 課題発見と解決のための資質・能力を育む

総合的な探究の時間では、生徒が実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにすることが求められます。

例えば、自分が住む市と近隣の市の人口推移グラフを比較して「自分が住む市の人口減少を食い止めるには？」との問いを見出した場合、「転入者数を増やすために必要な街づくりは何か」「子育て等の行政サービスをより良くするためにはどのようなことが必要か」「自分が住む市と近隣の市の産業はどのように違うのか」等、生徒はさまざまな課題を立てることが予想されます。こうした既存の知識を統合した多角的な分析には、各教科・科目の見方・考え方を



通して培った資質・能力が土台として不可欠です。

総合的な探究の時間は、課題の発見と解決に必要な資質・能力を身に付けさせることを目標としています。そのために、各教科等と連携を図って、これまでの学びを通して得た資質・能力を横断的・総合的に活用させる機会を教員が意識的に組み込む必要があります。

### 探究の過程

総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていきます。学習過程を探究の過程とするためには、次の四つの過程が重要です。

① 課題の設定 (例) どうしたら地域を活性化できるか  
生徒が実社会や実生活と自己の関わりから、自ら課題意識をもち、  
問いを見だし、探究課題を設定する。

★指導のポイント

- ・生徒が自分で課題を発見する過程を重視する
- ・十分な時間をかけて価値のある適切な課題を設定する

② 情報の収集 (例) 実際に町に出てインタビューする  
課題解決に必要な情報を収集する。

★指導のポイント

- ・情報収集の目的を明確にして行わせる
- ・収集した情報を適切な方法で蓄積させる
- ・各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集させる

③ 整理・分析 (例) 情報を整理し、因果関係を導き出す  
課題解決のために必要な根拠や理由となる情報を整理・分析する。

★指導のポイント

- ・「考えるための技法」を意識させる
- ・様々な教科等での学習成果を生かすように促す
- ・課題解決や探究活動の過程を振り返らせ、自分の取組と設定した課題との整合性を点検させる

④ まとめ・表現 (例) ポスター形式でまとめ・表現する  
探究課題から結論までを自分自身の考えとしてまとめ、表現する。  
自らの考えや課題を振り返り、次の探究へとつなげる。

★指導のポイント

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめさせたり表現させる
- ・自分自身の考えや新たな課題を自覚するように促す
- ・伝えるための具体的な方法を身に付けさせる
- ・各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用させる

問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動で、四つの探究の過程を繰り返しながらスパイラルに学びの深化を図ります。



## ☆考えるための技法

思考の際に必要な情報の処理方法を次のように整理したものです。

- ▶ 順序付ける
- ▶ 比較する
- ▶ 分類する
- ▶ 関連付ける
- ▶ 多面的に見る・多角的に見る
- ▶ 理由付ける (原因や根拠を見付ける)
- ▶ 見通す (結果を予想する)
- ▶ 具体化する (個別化する、分解する)
- ▶ 抽象化する (一般化する、統合する)
- ▶ 構造化する

詳しくは「今求められる力を高める総合的な探究の時間の展開 (高等学校編)」を参照してください。

## 「総合的な探究の時間」関係資料

学習指導要領以外にも様々な資料やデータを活用し、より良い探究活動を実現させましょう。

○ 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (高等学校編)

総合的な探究の時間 令和3年8月 文部科学省

○ 「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開 (高等学校編)」

令和5年3月 文部科学省 \*活動事例も多く、特にお勧めです!

○ 各教科等に関する教材や資料集等のWebサイトについて (文部科学省HP)

→ 「各教科等に……について」へのアクセスは、右の二次元コードから

